Haseko's Future Project

創って、つなぐ。

長谷工コーポレーション、及び長谷工グループの使命は、都市と人のために、よりよい生活環境を創ること。その志が変わることはありませんが、80周年を迎えたいま、その対応にさらなるアクションが求められていると感じています。企業の成長に伴い増大する地球環境への責任をしっかりと認識し、これまで培った暮らしに関わるテクノロジーを進化させながら次世代に伝え、つなげていくために、私たちにできることとは。
創業80周年記念プロジェクトを通して考え続けていきたいと思います。

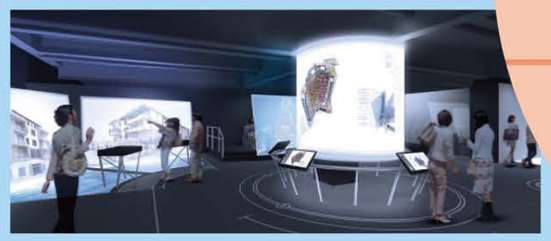
Haseko's
Future
Project

その先の未来に向かって、創業80周年プロジェクト、着々と始動。

長谷工コーポレーション、及び長谷工グループが創り、関わり、そして守るもの。
それは「都市」であり、そこに住む「人」であり、それらを取り囲む「自然環境」です。
そのために私たちが新しく取り組みはじめた、“未来を創る・つなげる”プロジェクトをご紹介します。

都市

これまで培ってきた、マンション分野における研究・技術開発の情報や、“暮らしや環境、街づくりへの想い”を伝えます。



人

マンションの建設、販売、管理、修繕やその他事業のさまざまな場面で活躍する社員たちの“環境・社会活動宣言”。

環境

これまで取り組んできた生物多様性や緑地保全活動に加え、より主体的に、継続的に自然環境保護を実行していくための取り組みを開始しました。

80周年を迎えるにあたって

長谷工コーポレーションは、今年の2月11日に創業80周年を迎えました。そのちょうど1年前、周年事業プロジェクトを考えるためグループを横断するワーキンググループが立ち上がり、自由な発想でさまざまな意見が交わされました。80周年はひとつの通過点です。100周年、さらにその先の命題とは何か、求心力を生む企画とは何かを考えることは、未来を創る若い社員たちにとっても、歴史を託す我々世代の社員にとっても、それ自体とても意義のある取り組みでした。

忘れてはいけない感謝の念

時間の経過とともに、バブル崩壊後厳しい経営危機に直面した長谷工の姿を知らない社員も増えていきます。しかし、苦境に立たされ、文字通り途方に暮れた社員もいたなか、厳しくご指導いただきながらも温かく見守り、支援してくださったステークホルダーの方々の存在を、私たちは決して忘れません。80年の歴史にそうしたお力添えがあったことを記憶に留め、是が非でも次世代へ伝えていく。その決意として、プロジェクトのキーワードのひとつを皆さまへの“感謝”という言葉としました。

人財の力、グループシナジーの重要性

そしてもうひとつ忘れてならないのは、苦しいときも仕事へのプライドを失わず、目の前の課題をひとつずつ解決へと導き、組織のリストラクチャリングを共に成し遂げた社員たちの存在です。改めて、人財に恵まれたことを“誇り”に思い、ひとりではできないことも仲間がいれば成し遂げられる、新しい未来を創ることができると確信しました。この考察を踏まえ、グループ内の業務内容や仲間をより深く知ることで、今後一層のグループシナジーを発揮することに力を入れてまいります。

周年ロゴマークに込められた意味と約束

こうした想いが形となった80周年のロゴマークは、「チーム長谷工」を象徴しています。長谷工グループの仕事には、終わりがありません。お客さまのあらゆるライフステージで期待にお応えするため、グループ各社が連携し、ひとつのチームとなってお客様の人生をバトンのようにつないでいきます。そしてそのバトンは、これまで脈々と受け継がれた80年分の社員のスピリットも乗せています。新生・HASEKOとなったこれからも、この大切なバトンをつなぎ、前進していくことこそが私たちの未来への約束です。

HASEKOの
80周年プロジェクト

長谷工の森林（もり）

ここで育てた木をマンションへ活用したい。
未来を見据え、「長谷工の森林（もり）」スタート。

地域と連携し、社会に還元できる活動を。
長谷工グループが、長野県茅野市の森林（もり）の里親に。

長谷工グループは、長野県茅野市と30年以上にわたって関わってきました。
現在もグループ保養所を運営するなど、地元との交流が続いています。これらの縁を更に充実させたいという想いから、ここ茅野市の森林を守り・育てていくことを創業80周年記念事業の中核と位置づけ、
森林の“里親”として森林整備をはじめています。

■ まずは20年後を見据えた、継続可能な活動を目指します。

長谷工の森林（もり）プロジェクト

- 社会貢献
- 未来志向
- 地域連携

これまでも、東京地区や関西地区における緑地保全活動や、地球環境に対する社会貢献活動への参加を進めてまいりましたが、「長谷工の森林」プロジェクトは、より主体的な社員の関与と継続的な環境活動として定着することを目的に企画されました。20年後の創業100周年を視野に入れた具体的なロードマップを立て、森林整備活動へのグループ全体の取り組み意識を高めていくことを目指しています。この取り組みが環境経営を促進し、企業の持続的発展につながると考えています。

■ 社内外に向けた「長谷工の森林」の3つの役割。

1. 森林を整備し、再生させる。

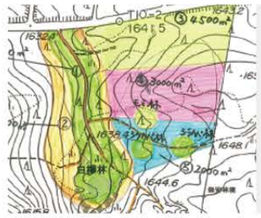
森林は、葉が茂りすぎると地面まで陽の光が届かず、細い木が乱立したり土地がやせてしまう場所もでてきます。そうしたエリアでは雨が降っても適切に水を吸収せず、土砂崩れを起こす危険もあります。まずは里親となったエリアを間伐したり、下草を刈ったり整備することで、生命力あふれる森林環境を取り戻すことからはじめていきます。

2. 人が集い、何度も訪れたくなる森へ。

花が咲き、木々に実がなるようになれば、蝶や鳥も集まるようになるでしょう。動植物のにぎわいとともに、遊歩道やブランコ、ちょっとしたアスレチックスペースなどをつくって、長谷工グループの社員とその家族、ステークホルダーや地元の方々が集う場所にしていきたいと思います。新たな交流を通じて、森林と子どもたちの成長を見守ります。

3. 活動を継続し、本業や社会へ貢献。

森林を育てるには時間がかかります。長いスパンで活動を継続させ、計画をひとつひとつ実現していくための仕組みづくりが必要です。「長谷工の森林」で植樹した木をいずれマンションの外構に寄贈したり、住人がクリスマスツリーに利用できる木を育てるなど、社員やステークホルダーが一緒に夢を描いたり、取り組める形で発展させていきます。



長谷工コーポレーションは、長野県茅野市と「森林の里親契約」を締結しました。

(1) 契約期間　2017年2月11日(土)～2022年3月31日(木)
(2) 対象森林　茅野市七ヶ耕地財産区有林 13.0ha
(3) 契約内容　・長谷工コーポレーションの支援による森林整備の推進
・長谷工グループ社員による森林整備活動を通した地域交流

未来に向かって、細くても長く続けることのできる活動に取り組みたい。

総務部 部長
松本 英伸

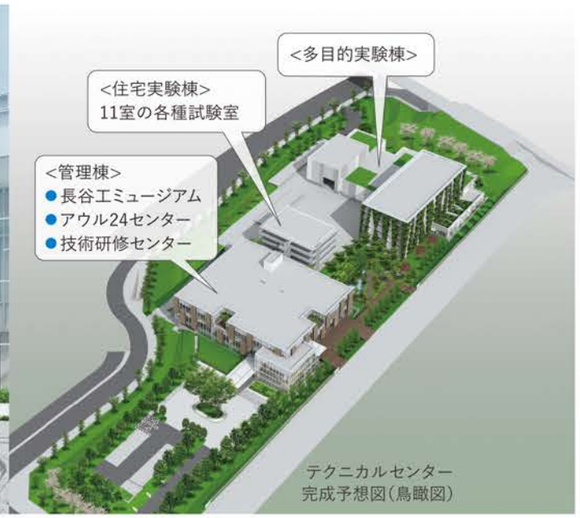
「100周年を目指した活動をやってみたい。例えば皆で植林をして、20年間木を育て、その木を使って住まいに関する何かを作れないだろうか」。創業80周年のプロジェクトメンバーから出たこの言葉が、今回の活動のきっかけとなりました。そして、「育てた樹木をマンションに寄贈できるか?」「バンガローを作って宿泊したい!」などの会話を重ねながら、メンバーの気持ちの中に「長期にわたって継続したい」、「自らが活動をしたい」という軸が固まってきたように思います。国や自治体の制度を調査したり、既に森づくりを行っている企業にヒアリングを行うと、さまざまな携わり方や活動継続の難しさを痛感しつつも、プロセスを経るほどに、「自分たちでできることを少しずつでもいいからやっていこう」という気持ちが強まりました。「社会貢献」「未来志向」「地域連携」という3つのキーワードを胸に、地元の皆さんと共に整備活動を行っていく中で、森林はどんな姿を見せてくれるのか。100周年を迎えた時、笑顔で今日の日を振り返れるよう、皆で息の長い活動を続けていきたいと思います。

HASEKOの
80周年プロジェクト

長谷工
テクニカル
センター

「住む人」を中心とした技術やサービスの開発。
そして“モノづくりへの想い”を発信する拠点へ。

テクニカルセンター
完成予想図(正面)



テクニカルセンター
完成予想図(鳥瞰図)

長谷工技術研究所を中心に、住まいと暮らしの創造を推進していきます。

創業80周年を機にグループの技術関連機能を集約、拡充した「長谷工テクニカルセンター」が新設されます。
その中核となるのが、「長谷工技術研究所」。マンションづくりの根幹となる研究・技術開発の要所として、
これまで以上に、生活者目線に立った新技術や新商品の開発、技術の検証等を進めていきます。
また、併設施設・機能を通じ、マンション事業主様や行政、管理組合の方々等のステークホルダーの皆様に対しても、
広く長谷工の技術に触れていただき、「住まいと暮らしの創造企業グループ」としての姿勢をより明確にしていきます。

長谷工テクニカルセンター

- 長谷工技術研究所
- 長谷工コミュニティ 技術研修センター
- 長谷工コミュニティ アウル24センター
- 長谷工ミュージアム (仮称)

■ 新「長谷工技術研究所」の特長。

1. **住宅実験棟の増床**
   ストック技術関連の実証・実験等にも、より対応できるよう住宅実験棟の試験室を8室から11室に拡充。
2. **各種実験エリアの規模が1.5〜2倍に**
   マンションの構造や建設材料、温熱環境への耐久性等住まいの構成要素に対する実験エリアを拡張。
3. **多目的実験エリアの新設**
   施工性能の確認や構造部材の強度試験等を全天候で行えるエリアの新設。

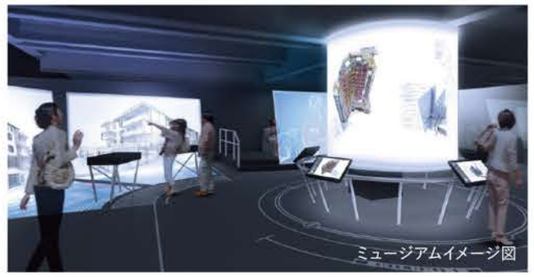
参考:住宅実験棟(現越谷技術研究所より)

■ 長谷工コミュニティ アウル24センター / 長谷工コミュニティ 技術研修センター

住まいを見守るサービスの拠点も集約。

- 長谷工コミュニティ アウル24センター(総合監視サービス)
  24時間365日のマンション管理ノウハウを継続し、より盤石な体制を築いていきます。
- 長谷工コミュニティ 技術研修センター(教育・実務研修)
  定評のある研修実績と充実した施設で東京都の職業訓練校の指定も受けている技術研修センター。外部からの研修依頼にもより柔軟に応えられるよう稼働域を広げていきます。

■ 長谷工ミュージアム(仮称)


ミュージアムイメージ図

テクニカルセンター内に併設される、新コミュニケーションエリア。

長谷工グループが長年にわたって培ってきたマンションづくりの技術力。それを支えてきた社員一人ひとりの中にあるモノづくりへの想いを、積み上げてきた実績と未来への展望で示していきます。長谷工グループの歴史、商品開発力、未来に向けた住まいの提案などを広く一般の方々に向け発信し、技術力に加え、住まいや住む人に対する想いも、目に見える形で継承していきます。

7つの「見て、触れて、感じて、学べる」空間構成。

- HASEKOスピリット=モノづくりへの想いを映像でご紹介
- HASEKOヒストリー=創業からの歩みを展示
- 住まいの歴史=ライフスタイルの変遷、新旧の住空間比較等
- モノづくり体感=設計や施工の技術を最新のITやVRで疑似体験
- 住まいのカタチ=建設資材や外装・内装のパーツを一覧
- これからの住まいの提案=他分野企業とのコラボ企画を展示
- ギャラリー=長谷工グループ社員の活動紹介、歴代CM紹介等

長谷工独自のモノづくりの強みを「安全・安心・快適」につなげていく、新しい拠点へ。

長谷工グループの技術面での強みを生み出しているのは、安全性への徹底したこだわりです。長谷工ではリアルな環境設定のもとで、集合住宅に関するさまざまな工法や構造、材料性能などの実験・検証が行われています。この強みをさらに拡充させながらスピーディに技術開発を進める上で、テクニカルセンターには大きな期待が寄せられています。また、設計、施工、販売、管理までの一貫した体制のもと、マンション建設が行われているプロセスの中では常に多岐にわたるフィードバックが研究に還元され、技術開発に活かされています。エンドユーザーのベネフィットに直結するこうした取り組みをより効率的に循環させる場としても、テクニカルセンターはハブの役割を果たしていくでしょう。地道な検証の繰り返しと、連携ある研究・技術開発のプロセスを強化して、長谷工独自のモノづくりの強みを一層伸ばしていける拠点となるよう、努めていきたいと思います。

エンジニアリング事業部　統括室長
小島 俊司

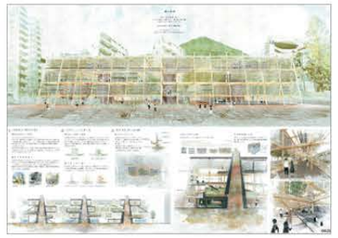
技術や歴史とともにマンションづくりへの想いをカタチにし、次代へ継承する。

創業80周年記念事業という中で、長年培ってきたモノづくりへの想いを対外的にも伝えられる場をつくりたいというのが、ミュージアム創設の発端でした。これまでもマンションのモデルルームなどで、基本性能についてアナウンスしたり、構造など隠れた部分が見えるように展示を工夫したり、それぞれのモノづくりに対する考えを伝えていたのですが、時代背景や技術の進化も踏まえた“ストーリー”として見せることはありませんでした。このミュージアムでは、それらを可視化し、見学される方にも体感していただくことが大きな狙いです。次の世代を創る社員にとっても、技術や歴史とともに想いの継承がなされることで、長谷工が大切にしている組織間連携が強化されていくのではないかと考えています。また、テクニカルセンターが建つ多摩市の賑わいにも貢献できるよう、ミュージアム展示を通じて、周辺環境の整備、豊かなまちづくりにも一役担えればと思っています。

CR推進部　統括部長
樽松 行雄

HASEKOの80周年プロジェクト

「長谷工の森林」、「長谷工テクニカルセンター」のほかに、
創業80周年を記念して、計10のプロジェクトが実施されています。
その中で、2つのプロジェクトをご報告します。


最優秀賞:「耕す群景」

表彰式の様子

第10回「長谷工 住まいのデザインコンペティション」の開催

建築を志す若手の人材育成を目的に、学生を対象とした第10回「長谷工住まいのデザインコンペティション」を審査委員長に隈研吾氏を迎えて実施しました。このコンペティションは2007年にスタートし、毎年異なったテーマを設定しています。

今回は「日本の集合住宅」をテーマに、全国の学生から発想豊かな提案が数多く寄せられました。登録総数627件、応募総数166件の中から最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点、長谷工グループ創業80周年を記念して新設した審査員特別賞5点を決定しました。12月には表彰式及びスペシャルフォーラムが開催されました。

「あまがすきハーフマラソン」への協賛

当社は、創業の地・兵庫県尼崎市において2016年10月に行われた「あまがすきハーフマラソン」に特別協賛しました。同市内においては、JR宝塚線「塚口」駅の大規模複合開発「ZUTTO CITY」等、多数の事業を進めているという関わりの深さもあります。当日のマラソンには、グループの役職員、並びに当社のマラソン倶楽部「長谷工ランナーズ」のメンバーも参加しました。

CSRとは、社員一人ひとりが自らの頭で考え、行動で示していくもの。

CSR部 部長
平井 裕史

企業としての社会的責任を幅広く捉えて全うするため、当社もこの春にCSR部を創設しました。長谷工グループの主な社会的役割は、社会資本としてのマンションをつくり、そのストックを維持するということ、そして地球環境にやさしい住まいづくりを通してより一層の信頼を得ていくところにあります。そうした取り組みは、既に当たり前のように行われてきたことですが、社会と長谷工グループの持続的な成長に向けて、中期経営計画(NBj計画)の重点戦略に定める"長谷工版社会貢献の確立"を目指し、さらに組織としてCSRに取り組んでいきます。CSRとは、トップダウンで企業の在るべき姿を見せるだけでなく、社員一人ひとりが自ら考え、行動で示していくものです。そのため"長谷工版社会貢献の確立"には、そのプロセスに多くの社員がかかわることで、環境保全や地域貢献などの社会貢献に対する自発的なルールづくりが成されていくことを期待します。機は、熟しました。非財務情報がますます重視されているなかで、情報発信を積極的に行っていくとともに、ステークホルダーの皆様と双方向のコミュニケーションが行われる仕組みの構築にも努めてまいります。

つなぐ。
次の100周年に向かって。

私たちが未来へつないでいく、環境・社会活動宣言。

創業80周年プロジェクトを機に、長谷工グループの一員として、
より良い環境・社会的価値を創り、次代につなげる活動を続けていきます。

長谷工グループは、「住まい」と「暮らし」を提供するだけではなく、より良い環境を次世代へ繋ぐことも使命だと「長谷工の森林」を通じて考えさせられました。

長谷工コーポレーション
営業企画部
鎌田聡子

居住者間の、マンションコミュニティの活性化とともに、環境意識の啓発や水の再利用の促進など、さまざまな効果をもたらす呼び水として取り組んでいきたいと思います。

長谷工コミュニティ
神戸支店 マンション管理1部
鍛冶奈津美

学生向けのデザインコンペやインターンシップの開催を通じて、彼らの将来に向けた挑戦や学びの場を提供すると同時に、集合住宅の魅力を伝えたい。

長谷工コーポレーション
人材開発部
山本考浩

建設現場のイメージを変え、快適な作業環境のもと、地域・環境に配慮した施工に心掛けます。マンション施工に携わるすべての人と新しい環境をつなげていきます。

長谷工コーポレーション
第二施工統括部
村上賢治

「長谷工の森林」は環境について考えるキッカケとなりました。一人ひとりの小さなキッカケが環境社会活動の大きな一歩になると思います。

長谷工リフォーム
工事2部
黒田英生

器としての建築と、その先にある人々の暮らしや、繋がり、街並み、風景を設計してきました。そんな「80年間受け継がれてきた思想」をミュージアムで伝えたいと思います。

長谷工コーポレーション
エンジニアリング事業部
BIM推進室
中野達也

建設現場にはキラキラした光景があります。その魅力を知ってほしいと思います。職場環境を改善して、もっと魅せる現場を目指していきます。

長谷工コーポレーション
第二施工統括部 建設1部
岩崎夕佳

長谷工が80年の年月をかけ、コツコツ積み上げたマンション事業のように、「長谷工の森林」活動も「少しずつ」からが大事だという事を再認識できました。

長谷工コーポレーション
第一事業部 営業1部
吉永光太郎

長谷工グループは、厳しい時代を乗り越え、飛躍に向けた転換期を迎えています。そのなかで企画された周年プロジェクトで見えてきたのは、「継続すること」の大切さでした。足下を見つめ、ひとつひとつ約束を果たしていく。環境、社会、そして人に対して誠実な企業体でありたいという想いを胸に、これからも一歩一歩前進していきます。